



津 奈 木

前代から

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦 北 郡 津 奈 木 町
電話 (78) 3111 (代)
印刷所 旭 印 刷
電話 (水保) 4101 番

飛びたて!! 若人たちよ

今まで生きてきた中で何歳が一番思い出に残っているか、といわれても、今はピンときません。十代の中で一番かわいらしい十七歳でさえ、私には何の変化もありませんでした。去年(十八歳)も、私自身では変化はあったけれど、みんなと同じ波にのって動いただけです。だいたい自分の年についてどうこう考えたことさえ、あまりありません。

でも二十歳という年だけはちょっとちがいます。二十歳という年に、私は色々な夢と期待をもつて生きてきました。

「二十歳までには結婚したい」とか、「二十歳になったら東京に行く」とか……。

二十歳の時、自分はなにになっているかと。スチュウデス、看護婦、小学校の先生、色んなことを想像しましたが、全部はすべて今は銀行O.Lです。さすがにこ

のかときくと、「体ができていないから」といわれます。そして誕生日がくるととんにそれが認められるのです。

前日までは厳しくだめだとされるのに急に一日で体に変化するはずはないのに変だなと昔は考えていました。

人間の一生には何回かのふし目というものがありますが、二十歳という年、そのふし目の中の大きな一つだと思います。その大きなふし目の式が成人式であり、自分自身の切りかえでもあるのです。

二十歳になり、成人式を終える

大人へのスタート台 ゆれ動く二十歳

永松 治子(小津奈木)



をもう大人です。でもまだまだ私自身は子供です。

外側でも早く大人にならなさいといわれます。でも何が大人なのか、どういふのを大人なのか私にはわかりません。でも、どろどろとした人間社会で平然と生き、なおも溶けこんでしまっているのが大人というのなら、私はなりたい大人です。今の世の中の政治家の様な人たちがエヘンツとい

一言

先ごろ昭和天皇が崩御遊ばされたが、ここに謹んで心から哀悼の意を表する次第である。明治時代を大きく上回り六十三年間の史上最長、波乱に富んだ「昭和」は幕を閉じ、新時代がスタートした。

慣れ親んだ「昭和」から「平成」へと改元された「平成」には国の内外にも天地にも平和が達成されるという意味が込められている。新時代の幕開けにふさわしく、平和と将来が期待される平成元年にしたいものである。

仕事のことなど、よかれと思っ

春はこぶ若人たち 沿道わかせた三太郎駅伝



毎年恒例の熊日主催三太郎駅伝大会が、去る一月二十一日(日)田浦町改善センター前を出発点とし、水俣市役所を終点とする三十九、二キロのコース(一般・高校生五区間、中学生九区間)で行われた。

参加チームは一般十一チーム、高校生六チーム、中学生十二チーム計三十九チーム、選手百九十三名が参加した。

今年こそはと、当町選手も九月中旬より練習に入り、十月二十日結団式を行い、毎週火・木・金曜日の三日間、雨の日も風の日も練習に励んで大会にそなえて来た。

大会当日は、曇りながら駅伝日和で、田浦町を午前十時スタート。沿道の声援を受けながら、曲りくねった旧佐敷太郎を越える途中、竹本昌広選手が腹痛を訴え、無事タスキを渡すことができたが心配されたが、見事に走り切り、監督の期待にこたえた。

また、宮崎弘行選手は四区九、三キロ(湯浦馬出野より役場前)で二十九分五十五秒の好記録で力走し区間賞に輝いた。

そのほか、各選手とも力走し、Aチーム三位、Bチーム七位、総合三位と健闘した。

中学生チームもよく頑張った、十

地名に刻まれた歴史

語りつがれる昔話から

鶴野達雄

私たちのまわりには、何時の頃か、どうしてつけられたのか、わからぬ地名があります。小さい頃、父が子供相手に話してくれたものに、次のような面白い話がありました。

県道津奈木・深川線を国道三号線より別れて、染竹地区を深川に

町・地区だより

薩摩往還を歩きませんか

とき 三月十九日(日)曜 8時30分

集合場所 役場前広場

コース 石木田・歌坂・重盤岩眼鏡橋・千代塚・津奈木太郎・湯浦山川・湯浦(ルンバーク)



セシバ)夜鳴越(ヨナゴエ)鳴止迫(ナカンサコ)と有りその迫の先の峠にドセゴロシとあります。

その四ヶ所の地名が物語りの筋を追ってゆくのに、順序良く並んでいるのが面白く、昔話として残っているのでしょうか。

伝説話のついで、何年前のな

サコ)だといひます。

人は皆おそれ逃げる時は、せまい所、せまい所へと身を伏せながら、逃げる習性を持っているそうですが、その時の戦士も二ツ嶽のあてまい道づたいに逃がれたのだらうと思ひます。

負傷したかたを一時休ませ急ぎ隣村と界なすドセゴロシを越へて逃げのびたそうだと父は昔話を残してくれました。

ドセゴロシのドセとは、精一ぱいの力といひますか、息が切れそうになる位つかれることで、ドセヤミ、又はドセゴロシという方言が残っています。

今はそのドセゴロシも中五七位の道路を建設中で車で行けるようになってきています。

編集後記

新人編集第一号を届ける。春の到来と共に当町に明るい息吹が聞え始めた「郷土史料文化館」が完成し、津奈木町にも一億円が舞いこんでくる。文化館で何をさせることができるか、一億円をどう有効に使えるか、町民の頭脳が試みされることになる。陽気に浮かされることなく、このところは冷静に状況を観察した良案を絞り出してほしいものだ。今号に登場してもらった新立和市長の熱意に負けず、かくれた人材が数多く輩出するよう期待している。

資料提供のお願い

この三月、町民広場に「郷土史料文化館」が完成する。その中に民具資料室が設けられる。詳細は次号)古いものが失われてゆくのは致し方ない面もあるが、ここではつきりした姿勢をとらないとなしきうに消えてしまいかねない。丁度いい時期に資料室が完成した。倉のなかで埃を被っている民具に光を当ててやりたいたいと考えます。資料室の広さに限度があるので、何でもよいというわけにはいきません。また次のテーマに絞って提供して載せたい。ご協力をお願いいたします。

大道具具全般(柄に手の握り凹みがあるもの大歓迎)

所有者の情報でも結構です。教育委員会までお知らせ下さい。

「地域をおこす人々」 完熟甘夏に再生を賭ける

新立和 市(59才)さん



「甘夏の将来は今とこ、まだ真暗です。いつときやこんままでツレ」

昭和三十一年初頭、田浦に芽生えた甘夏の生産は、またたく間に芦北郡全域にひろがり、三十年の長い高度生長を遂げたあと、今大きな転機を迎えている。

昨年柑橘業界に吹き荒れた完全自由化の嵐は、生産者の意欲減退に拍車をかける結果となった。

「甘夏がかかえる問題点は①むきにくい②中袋もまたむかんならん③種が多い④イチゴやメロンなどの競合品が多いことなどです」と新立さんは素直に弱点を認める。その上で消費者が最も好む(高い値段で売れる)玉を作るためには、①健全な樹勢を保つ②葉の状態

読書感想文

「ハチ公物語」

津奈木中学校二年 真野 理恵

「誰の人生にも、ハチと上野博士のような強い絆に結ばれる出会いがいつかある。ある人にとつてのそれは、他人との出会いであり、またある人にとつては、一曲の音楽、一枚の絵画ということがあるだろう。」

この物語の著者「田中一江」さんの言葉である。この言葉の通り、これから私が話すハチと上野博士こと先生は、まさに人間と動物をこたえなく結ばれていたのだ。



庁舎美術館(二五三) 「位相」——リトグラフ

一九八二 坂本 善三

「ハチ公」と聞いて、みなさんは、どんなイメージを持つだろうか。たいていの人は「忠犬」と思うだろう。たしかに、ハチは忠犬だったと思う。自分の主人である上野氏を、毎日毎日、駅まで送り迎えをし、上野氏の急死後も、けなげにも駅で永遠に帰ってこない主人を待ち続け、死んでしまったからだ。きずな」というのは態度ではない。「心」なんだということ。この物語を読んだらわかると思う。ハチは口をきくことはできない。上野氏も犬の言葉はわからない。上野氏も一人の人間と一匹の犬とが、通じ合っていたのは、まさに心が通じ合っていたのと同じなのだ。



親子たごあげ大会

天までとどけ

「ボクのが高くあがったよ」

タコの作り方を教え、そのタコを一緒にあげて親子のふれ合いを深めながら、古くから伝わる正月の子供の遊びを続けていきたいとの願いがこめられている。

おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に、親子づれ二十八家族六十名が参加した。当日は好天には恵まれたが無風状態が続き、やっと十一時すぎに待望の風が出て、それぞれ持参の手作りタコをあげたのしんだ。しかし、なかにはタコあげが初めての子供もいて、見かねた親がタコを取りあげ、子供そっけで糸を引く親もあつた。子供たちには「高とび賞」「じんこ賞」などが贈られた。

県文化財

小ミカン原木

桜戸のJR線鉄橋をくぐり抜け南に進み、人家がなくなった地点から二百先の山あいにはいりこんだところで、畠に開かれた日当りの良い、砂地に覆われた一角に、津奈木町が誇る小ミカンの原木がある。

一本で二百平方メートルの広さにひろがり、枝が地中にもぐってそれから幹が群生しているように見える。蜜柑の旺盛な繁殖力に驚かされるばかりだ。



代の頃中国江西省あるいは浙江省からの渡来で、肥後あたりで栽培

されたと「看聞御記」応永二五年(一四一八)の記録がある。また、正保二年(一六四五)以前の「肥後領高家数、船数しらべ」によると「芦北郡なり物の類 ミカン 九年母、だいだい」とある。熊本県果樹試験所長の推定や、六車家の家系から、樹令三五〇年以上という推論は確実な記録こそないものの、大きなうねりはないと思われる。

この小ミカンは、所有者六車家(現町長は十七代目)四代目が八代から津奈木に移住した時、苗木を持参したと伝えられている。県内温州蜜柑の主産地河内に残る小ミカンの古いもので三百年、古代から徳川時代に至るまで献上

私たちの文化財 2

短歌

宮崎 優選

霧流るる海を背にして吾が庭の老紅梅の咲きさるなり
土深く浸みぬ小雨の降り続く冬芽もぬれて春待つらしも
西 滋子
やわらかきみどり児胸に抱きつつ
落ち葉の深き日だまりに行つ
雨しぶく風邪に臥りし夕暮に夫は
厨に湯を湧かしおり
白浜 美和子
風邪気味に年暮れゆけばつらき日
びおして早ばや水仕事なす
一面の緑にかこまれピラカンサ落
陽のひとときひとときわ輝く
福田 八重子
我が庭の榎の木雨に洗われて今日
新しき年号となり
庭園を心に決めてちぎりに行くあま
なつみかん輝きて見ゆ
野田 浦子
窓の辺の植木の枝を切りつめて冬
日もさしぬ柿赤し
つつましく過ぎなむかな年の瀬を
長編絆の襟新しくかゆ
寺本 ツルヲ
正月をゆづ湯にひたりこの年もす
こやかなれとひとり念ずる
焚火せし後をカラスのつつきおる
残り火ありてかサツト飛びたつ
柳迫 いづも
朝のお茶独り静かにのみながら締
切り迫りし短歌思ひ居り
木枯らしに草みなすがれし山もと
に黄いききとつわぶきの咲く

肥後狂句

堀 双岳選

池辺吉十郎に統御されていた学校は、西郷という反政府的存在に、第二の維新の実現を夢見ていた。ために西郷の帰山後は、その周辺とたえず連絡をとっていた。私学校が暴発する一ヶ月ばかり前の明治十年一月五日には、池辺と佐々友房は早朝熊本を発つて赤松太郎を越え、田浦から舟で水路野田・川内を経て九日午後、鹿児島に着き、まず、池辺旧知の鹿児島県庁の大属であった今藤宏を訪ねている。池辺・佐々の旅行の目的は、西郷・桐野・篠原はじめ私学校校首の首脳に会って、蹶起の

を経て吉田に泊り、十四日早朝飛雪顔を打つ凍寒の吉田越の難路を越えて、夕方人吉に着き、夜須須拙速を訪ね、饗応にあづかり、城下を泊る。十五日舟をよとつて球磨を下を下り、十六日熊本に帰っている。反政府という点で一致する学校

熊本隊

岡本秋徳

里八郎・山崎定平らを任じ、一番小隊長佐々友房・二番小隊長島居数恵・三番小隊長城市郎・四番小隊長内柴三太・五番小隊長三宅新十郎・六番小隊長古賀作十郎……と、十五番までの小隊に編成された。多い小隊の兵員は一七〇—一八〇名ぐらいであったが、平均

一〇〇名で、通町連(郷党)で編成された城市郎を小隊長とする三番小隊の隊員のなかに須佐美一族——須佐美素雄・須佐美偉太の姿もあつた。須佐美偉太は岡松壮氏の祖父である。

須佐美氏家系

初代 九郎兵衛——清右衛門——永貞——永常
五代 素雄(九郎兵衛)——權之丞——
七代 八代九代
權十郎——素雄——梯太——
三代 二代 三代
虎雄——武——朋紀——下藤部
学(八代市在住) 藤田(下藤部)
又男(岡松)——壮(津奈木町在住)
七代權十郎までの墓は熊本市本妙寺の中に在る。

(新人物往來社歴史研究會)

で、考えてもらいたいと思う。上野氏を信頼し、愛し続けたハチの気持ちかわかると思う。そして、いろんな意味での「出会い」、「別れ」、「きずな」が心の中に残るだろう。

ハチ公は、もうこの世にはいない。でも、今でも渋谷駅で、銅像となつて愛する先生を待ち続けている。そんな忠犬ハチ公のことを忘れず、素晴らしいきずなで結ばれた出会いが来るように、常に感動する気持ちを失いたくないものである。

「ハチ公物語」は、小説だけでなく、映画化にもなっている。私は、ぜひ、みなさんに見て、読んでほしい。